

国立大学は2004年に国立大学法人となり、以来、6年を一つの期間として改革を進めてきました。第1期は2004年から、第2期は2010年から、第3期は2016年4月から始まっています。この6年間の計画、また、2025年問題に向けての10年先を見据えた計画を、この「岐阜大学の将来ビジョン(森脇ビジョン)」に示しております。

岐阜大学の将来ビジョン(森脇ビジョン)に示した5つの様々な戦略(教育、研究、社会貢献、国際化、大学病院)での取組について、学外の有識者の方々と対談いたしました。

岐阜大学 学長 森脇 久隆

岐阜県産品のさらなるブランド化を図るため
岐阜大学との連携を深め、うまくコラボレーションしていきたい。
岐阜県農業協同組合中央会 会長
ぎふ農業協同組合 代表理事・組合長 櫻井 宏氏
× 岐阜大学 学長 森脇 久隆 4

ものづくりの分野だけでなく観光業とも連携し、
地域経済に寄与する存在であってほしい。
株式会社十八楼 女将 伊藤 知子氏
× 岐阜大学 学長 森脇 久隆 8

岐阜の地場産業にとって最も役立つのは、
開発から事業化まで一緒に取り組んでもらうこと。
株式会社TYK 会長 牛込 進氏
× 岐阜大学 学長 森脇 久隆 12

【表紙左下のイメージ図について】
これは岐阜大学の将来ビジョン(森脇ビジョン)をモデル化してイメージ図にし、地域の中核たる岐阜大学が、人・物・情報を地域社会にもたらし、さらに国際社会とも呼応しつつ、相互に発展していく様子を表したものです。

岐阜大学の将来ビジョン(森脇ビジョン)

【2025年に向けて】

「地域活性化の中核拠点であると同時に、
強み・特色を有する分野において
全国的・国際的な教育・研究拠点の形成」
を目指します。

